

## メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一15:12～19 「もし復活がなければ」

[12]「ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか」

コリント教会の中のある者たちは、死者の復活はないと主張していた。彼らがこのような考え方をしたのは靈魂を重んじ、肉体を蔑視する当時のギリシヤ哲学の影響があったからと考えられる。ギリシヤ哲学の発祥地アテネはコリントのすぐ北に位置していた。

[13]「もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう」

キリストが死から復活されたように、キリストを信じる者もまた死から復活する。これが聖書の教える希望である。しかし、コリント教会の一部の者が言うように死者の復活などないとするならば、当然キリストも復活されなかったことになり、そこには何の希望もない。

[14]「そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものとなり、あなたがたの信仰も実質のないものとなるのです」

キリストの復活は福音の核心である。もしキリストが復活されなかったのなら、パウロや他の弟子たちが今まで宣べ伝えてきたことは全くむなしくなってしまう。そしてコリント人も含めたすべてのクリスチャンの信仰もむなしく、実質のないものとなってしまう。

[15]「それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです」

神がよみがえらせなかったキリストを、あたかもよみがえらせたかのように言うことは、神に逆らう証言をしたことになる。しかし、本当にコリント教会の一部の人たちが言うことが真実で、パウロはじめ使徒たちの宣べ伝えていることがうそ偽りなのか。もしそうなら、彼らはどうそのために苦しみ、迫害を受け、殉教することになる。

[16-17]「もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです」

イエス・キリストが私たちの罪のために十字架にかかって死なれ、罪の贖いをなされたということは死からの復活によって確証される。→ローマ4:25 もしキリストが死んだままであったなら、彼は死よりも弱いことになり、罪の贖いは未完成ということになり、彼を信じる者も決して復活することはない。死は人類の罪の結果、入って来たものである。→創世記2:17、ローマ6:23

[18]「そうだったら、キリストにあつて眠った者たちは、滅んでしまったのです」

世の多くの神を信じ、キリストを信じて死んで行った者たちは、永遠のいのちをいただき、天の御国に入るところか滅んでしまったことになる。

[19]「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です」

しかし、事実はそうではない。わざわざ、パウロがキリストの復活がなかったならば、と語ったのは、それがいかに希望なく、悲惨な状態に人を落とすかということを示すためであった。実際はクリスチャンはそのような哀れな者ではない。かえって、すべての人々の中で最も希望と喜びに満ちている者である。キリストがよみがえられたように、また私たちも死から復活する。この確実な希望の上に立って私たちは生きることができるのである。キリストの復活についての詳しい説明は20節以下で述べられていく。